

取香 遺産

Vol.77

「飯篠長威斎墓」
由緒ある武術・天真正伝
香取神道流の始祖



▲飯篠長威斎の墓

香取神宮楼門から西へ旧参道を進み、雨乞塚（諸神塚）を左に曲がると、天真正伝香取神道流の始祖、飯篠長威斎の墓（昭和18年2月19日・県指定史跡）があります。

香取神道流は、室町時代の中ごろに飯篠長威斎家直により始まった武術の流派で、その後多くの流派に影響を与えたことから、武道の源流の一つといわれます。

墓所は高さ2mほどの塚状になっていて、中央には高さ91cm（地上高77cm）、幅約48cmの板碑様の石碑が立っています。上部が斜めに欠損した平石で、碑面には「飯篠伊賀守長威大覚位」と刻まれています。

文政11年（1828）久保木清淵著の『香取参詣記』に「諸神塚の左の方人家の裏に、飯篠長威入道の碑あり小碑なり、長享二年戊申四月十五日」とあり、この所は梅木山不断所と云寺ありし所なり、長威入道兵術練行の趾と云」と紹介されています。長享2年

あたります。

飯篠家直の生まれは、香取郡飯篠村（現多古町）で、故あって香取神宮のほど近く、丁子村山崎に移り住みました。伝承によれば、香取神宮の神威を感じた家直は、神宮門前近くの梅木山不断所で千日籠りの修行をし、遂に剣術の奥儀を極めたとされます。

家直の子孫は、当代の飯篠快貞氏で20代目を数えます。代々神宮の近くで子弟の指導を続け、現在も神道流道場平成8年・市指定建造物）は神宮の南に所在しています。

神道流の型（昭和35年・県指定無形文化財）は、太刀、居合抜刀、棒、槍、長刀、柔術、築城術などいわゆる武芸十八般にわたりますが、その型の大半は、トンボ伝書と呼ぶ極意書とともに、宗家の快貞氏により継承されており、また、師範大竹氏の道場（成田市）では門弟の指導が続けられています。

（1488）は家直の没年に

問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224